

場所・面積

茨城県つくば市、面積：0.22 ha

管理目的

- ・工場や道路等、その周辺環境を維持管理し、製造業を継続すること
- ・里山的環境の形成・維持により、生物多様性の保全に貢献すること
- ・森林や生き物を活用した環境教育を実施し、森林と人とをつなぐこと

サイト概要

- ①体験を通じた創造性・感受性・他者への思いやりなど豊かな心を育てる保育
- ②保育者・保護者も子どもとともに楽しみ学ぶ場
- ③地域との有機的なつながりといった環境教育の場として活用することを目的としたビオトープ。異なる環境が繋がり、多様な生きものが暮らす豊かな園庭ビオトープとして維持管理。



アピールポイント

地域本来の里山環境の再生を目指し、園庭にてクヌギや水田ビオトープ、草地を維持管理。クヌギには、カブトムシなどの樹液を利用する昆虫が集まる。水田ビオトープには昆虫等が生息。

価値4：【健全性】近隣の里山に生息する在来種が確認。

【生態系サービス】ビオトープ管理士による観察教室等の体験を通して、在来種の保全・維持管理の考え方を学ぶ場。

生物多様性の価値

地域のクヌギ山の中で多様性を受容する文化の醸成と自然と人が支えあう暮らし方の原体験の場

【場の概況】

本園の環境は、子どもも大人も身近な自然への温かな眼差しが、育まれる場となっている。園児たちは、自分以外の小さな命の存在を意識し、想像力や思いやりの心が育ち、遊びの中で自然や生き物は「危ないもの」から「身近な存在で大切なもの」へと認識されるようになっていく。

しかし、開園当時は約110種を超える植物相(ツクシ、ヨモギ、ヤブマメなど)も、園児の安全性と自然保護の両立中でのゾーニングが進み、利用区域の踏圧で植物相の衰退が進行している。また、園庭の中心部にある林床は、樹木で日光が遮られているため、植物相の単純化が進み、次世代の樹木や植物が上手く成長できない環境になっている。

そのため、専門家と共に現状を分析し、「安全」と「自然保護」の両立ができる多様な生きものが暮らす園庭ビオトープへ管理目標を改めて作成し、ゆるやかな移行帯や土壌における水と空気めぐりである物質循環の回復と創出を園児と職員共に維持管理を実施し、自然と人が支えあう暮らし方の実践と体験のセットで豊かな自然を取り戻したい。

【主な植生】

ハンノキ(実生) シラカシ(実生) コナラ(実生) ムクノキ(実生) エノキ(実生) コブシ(実生) クスノキ(実生) タブノキ(実生) シロダモ(実生) ミツバアケビ、ヒサカキ(実生) ノイバラ、ツゲ(実生)、タラノキ、エゴノキ(実生) トウネズミモチ(実生) ムラサキシキブ、ニワトコ(実生) カナムグラ、ヤブマオ、イヌタデ、ギシギシ、ヨウシュヤマゴボウ、ウシハコベ、コハコベ、ドクダミ、ナズナ、イヌガラシ、ヘビイチゴ、ヤブヘビイチゴ、ミツバツチグリ、ノイバラ、ヤブマメ、ヤハズエンドウ、オッタチカタバミ、アメリカフウロ、ヤブガラシ、アシタバ、セントウソウ、ミツバ、ヤマゼリ、チドメグサ、ヤブジラミ、マンリョウ、コナスビ、ヘクソカズラ、シソ、タチイヌノフグリ、オオイヌノフグリ、オオバコ、スイカズラ、ヨモギ、センダングサ、ハルジオン、セイタカアワダチソウ、オニノゲシ、ヒメジョオン、セイヨウタンポポ、オニタビラコ、オモト、ヤマノイモ、ツユクサ、ヤブミョウガ、カラスムギ、ケチヂミザサ、アズマネザサ、スズメノカタビラ、イヌクグ、ムラサキシギゴケ、スギナ、ゴギジョウ、ホトケノザなど



写真番号： 写真の撮影年月：2023年8月21日
 写真の説明：このアズマネザサは、園の敷地内で唯一建設前の状態を保全管理している場所。様々な生き物のコアゾーン(シェルター)となっている。園児は七夕行事の際に短冊をつけて家に持ち帰るなど日本文化に触れ合える貴重な植物となっている。



写真番号： 写真の撮影年月：2023年5月17日
 写真の説明：ジウニヒトイは、5年前に駐車場切り株付近に初めて確認。保全後に毎年増えてきている。

生物多様性の価値

地域のクヌギ山の中で多様性を受容する文化の醸成と自然と人が支えあう暮らし方の原体験の場

【確認された主な動植物】

ジョロウグモ、カニグモ、オオアオイトトンボ、アジアイトトンボ、オニヤンマ、オオヤマトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ノシメトンボ、マイコアカネ、モリチャバネゴキブリ、ハラビロカマキリ、コカマキリ、チョウセンカマキリ、オオカマキリ、ヒゲジロハサミムシ、ツユムシ、ササキリ、クビキリギス、ヤブキリ、アオマツムシ、ハラオカメコオロギ、ミツカドコオロギ、エンマコオロギ、ツヅレサセコオロギカネタタキ、ショウリョウバッタ、トノサマバッタ、クルマバッタモドキ、ツチイナゴオンブバッタ、アオバハゴロモ、アブラゼミ、ツクツクボウシ、ミンミンゼミ、ニイニイゼミ、ヒグラシ、ツマグロオオヨコバイ、ツマグロヨコバイ、ヨコヅナサシガメ、ホソヘリカメムシ、ホシハラビロヘリカメムシ、チャバネアオカメムシ、イネクロカメムシ（クロカメムシ）、アカスジキンカメムシ、シロシタホタルガ、ミノウスバ、ミヤマセセリ、イチモンジセセリ、ウラギンシジミ、ミドリシジミ、ヤマトシジミ、ツマグロヒョウモン、キタテハ、オオムラサキ、アカボシゴマダラ、ジャコウアゲハ、アオスジアゲハ、カラスアゲハ、モンキアゲハ、キアゲハ、クロアゲハ、ナミアゲハ、モンシロチョウ、ヒメジャノメ、ヤママユ、ウスタビガ、セスジスズメ、スズメガ科の一種、マイマイガ、ガガンボ科の一種、オサムシ科の一種、ハネカクシ科の一種、オオヒラタシデムシ、センチコガネ、コクワガタ、アオドウガネ、ビロウドコガネ、コフキコガネ、マメコガネ、シロテンハナムグリ、カブトムシ、ヤマトタマムシ、コメツキムシ科の一種、セボシジョウカイ、ナナホシテントウ、トホシテントウ、ナミテントウ、テントウムシ科の一種、キマワリ、キマダラミヤマカミキリ、キイロトラカミキリ、ゴマフカミキリ、クローリハムシ、コガタリハムシ、チョッキリ、コアシナガバチ、オオスズメバチ、キイロスズメバチ、ジバチ（クロスズメバチ）、ヒゲナガハナバチの一種、ニホンアマガエル、ニホンアカガエル、ニホントカゲ、ニホンカナヘビ、ノスリ、キジバト、コゲラ、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、ウグイス、エナガ、シジュウカラ、メジロ、アオジ、シメ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ミズムシ科の一種、アメンボ、マツモムシ、ハナアブ科の一種、チビゲンゴロウ、クロズマメゲン、ゴロウ、マメゲンゴロウ、ヒメゲンゴロウ、ヒメガムシ、ガムシ科の一種



写真番号： 写真の撮影年月：2023年8月17日
 写真の説明：茨城県絶滅危惧種であるヤマトタマムシは、園庭で毎年夏場に確認できる貴重な昆虫。



写真番号： 写真の撮影年月：2023年7月25日
 写真の説明：トウキョウダルマガエルの確認は創設以来初めて、園庭の田んぼで確認されました。

サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容	モニタリング計画の内容
<p>【管理計画の内容】 園庭ビオトープ方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のすべての生き物が暮らせる場(休息・採餌・世代交代) ・失われつつあるつくばの自然環境の再生・創出・維持(人と自然が共生、助け合い維持される明るい森、田んぼを含めた水辺環境) ・多様性を受容する文化の醸成(互いを認め合い、共存する知恵を学ぶ) <p>管理方針(2022年度から2025年度) 「異なる環境がつながり、多様な生きものが暮らす園庭ビオトープへ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「つながり」と「めぐり」を意識した順応的管理。 <p>ポイント①ゆるやかなつながり(移行帯)の回復と創出 ポイント②めぐり(物質循環)の回復と創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の専門家による年間の園庭管理計画を作成 ・専門家生物調査によりモニタリングを毎月行い、園の維持管理作業に反映する。 <p>「つながり」移行帯エコトーンを意識した順応的管理は、園庭グラウンドと緑地帯、林床部分、畑、田んぼそしてつくば市が管理しているゆかりの森の豊かな生き物が往来できるよう、異なる環境をつなげる工夫をして、維持管理する。</p> <p>「めぐり」を意識した順応的管理は、土壌における水と空気のめぐりの回復と創出を人の作業と自然の土壌生物・菌類を共同で増やす取り組みをする。また水と空気の通り道を作り、草地の回復による団粒構造を促進させる。</p> <p>物質のめぐりの回復と創出は、自然と人が支え合う暮らし方を保育園という遊び場や職場で実践・体験することが重要であるため、給食に使用する野菜類を、落ち葉で堆肥にして利用し育て食することで昆虫や落ち葉小枝などの必要性を五感をつかって得られるようにする。</p>	<p>【モニタリング対象】 主に保育園園庭 【モニタリング場所】 園庭、近隣農地、ゆかりの森など 【モニタリング手法】 資料調査、森林概況調査 【実施時期及び頻度】 毎月 【実施体制】 専門家(ビオプロネット)と連携、ビオトープ教室、職場内ビオトープ委員会、園庭樹木管理業者と連携</p>  